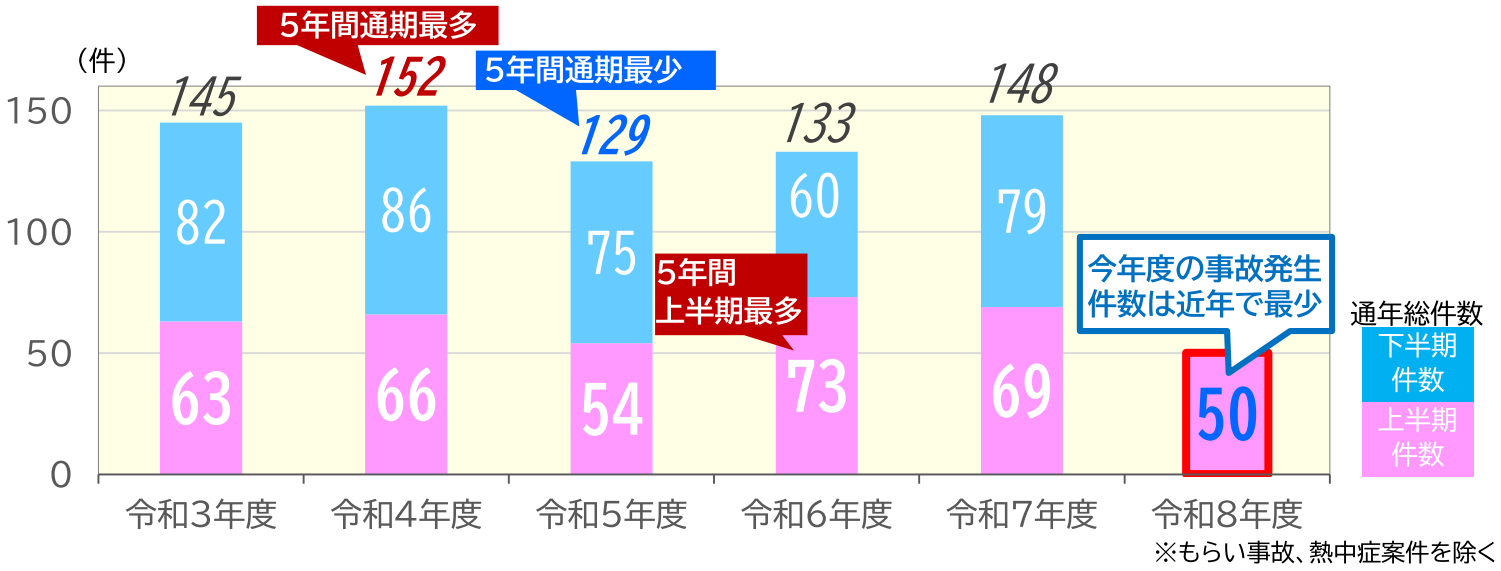
あんぜん

第　３　６　８　号
令和８年１０月号

近畿地方整備局
発行：企画部技術調査課

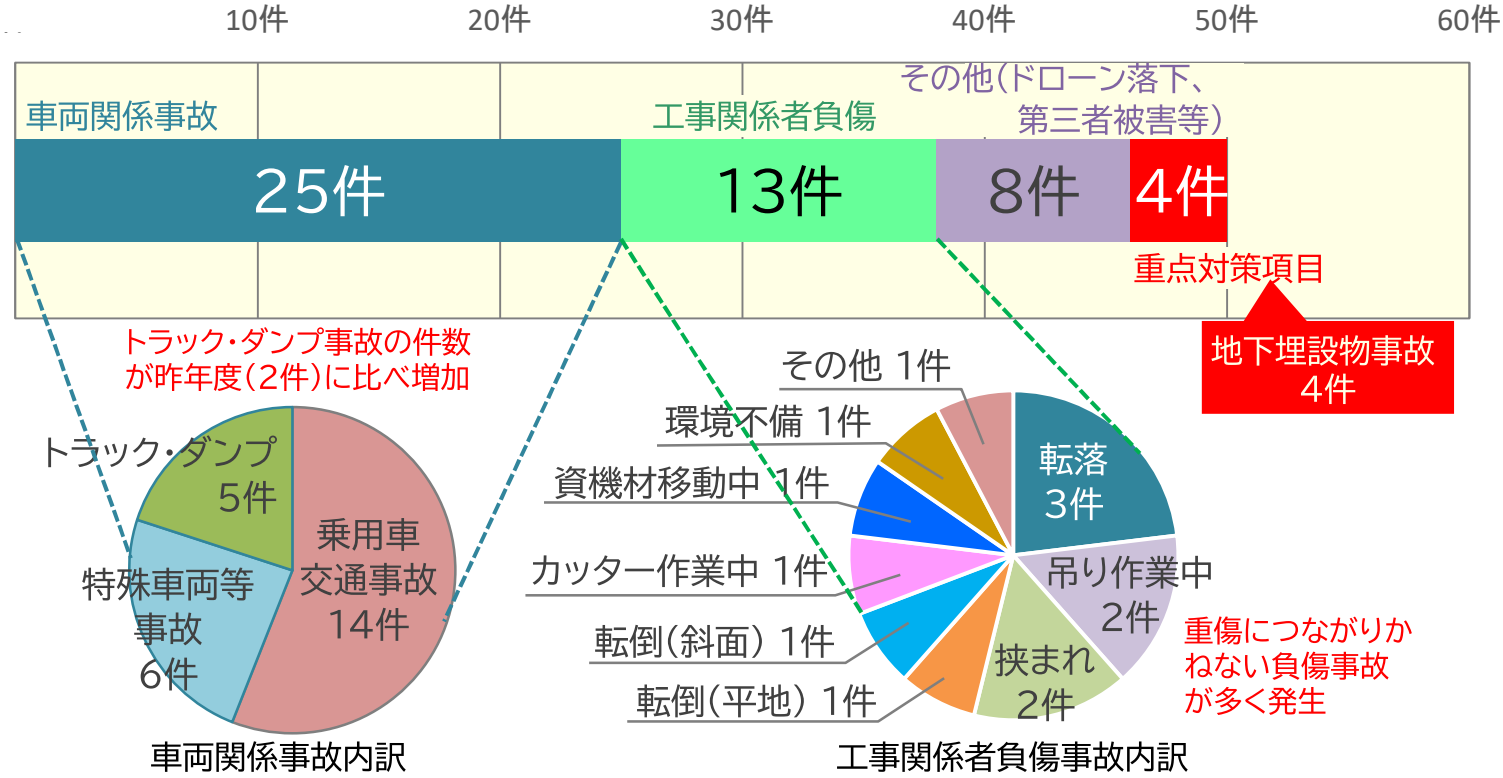
今年度も工事等の事故が発生しています！

近畿地方整備局管内における工事等の事故発生件数（R8.9月末時点速報値）



※もらい事故、熱中症案件を除く

上半期発生事故（50件）の内訳



車両関係事故内訳

工事関係者負傷事故内訳

今年度の上半期は、事故発生件数が例年より少なくなっています。
しかしながら「大丈夫だろう」という思い込みや確認不足による事故は依然として発生し、転落や吊り作業中の事故など重傷につながるおそれのある事故も発生しています。
事故の多くは、もう一度の確認や声掛けで防ぐことができます。基本動作を確実に実施し、事故防止に努めましょう。

「これくらい大丈夫」が事故を招きます
慣れた作業ほど気を引き締め、事故を防ぎましょう！

「見えている」だけでは、地下埋設物事故は防げない

～ 離隔の確保とルールの遵守を徹底しましょう ～

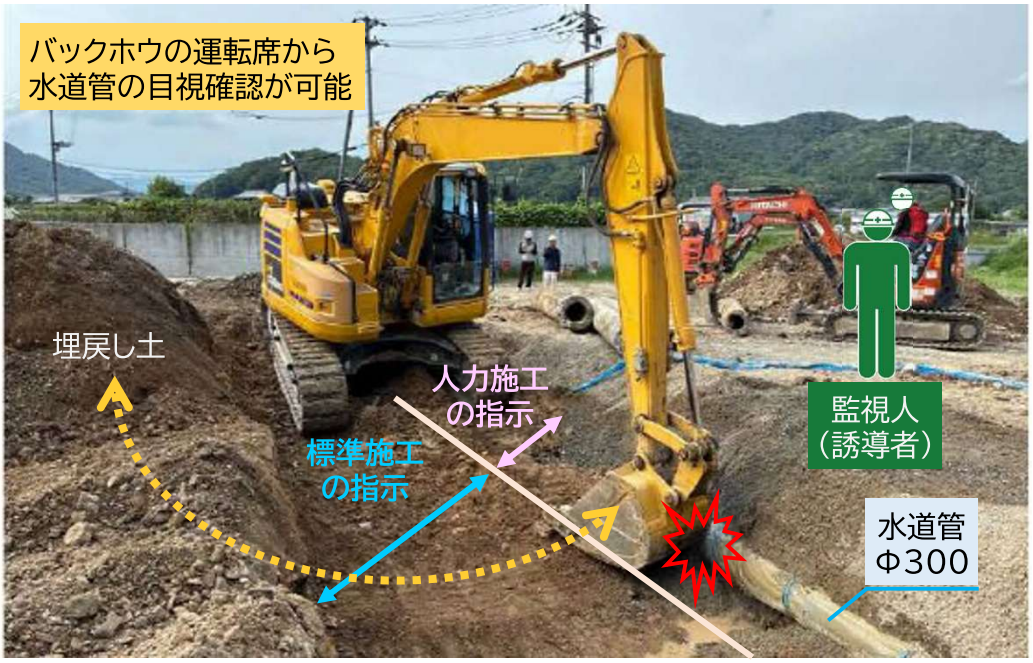
地下埋設管及び敷設ケーブルに対する事故

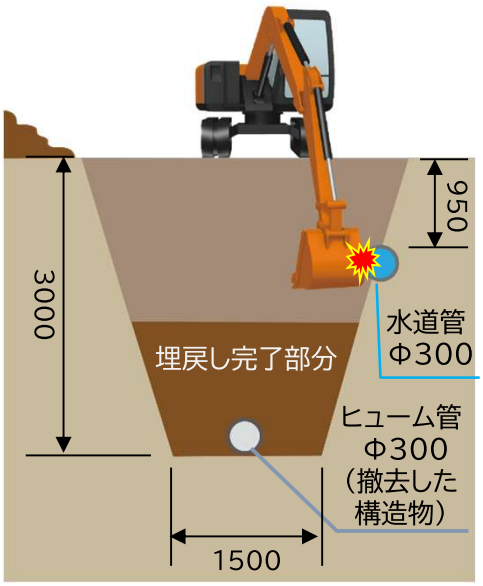
地下埋設物事故は、今年度上半期は例年より少ない状況でしたが、わずかな確認漏れや思い込みが重大な事故につながるおそれがあります。下半期も気を緩めることなく、事前調査や試掘、作業ルールの遵守を徹底し、地下埋設物事故の防止に努めましょう。

事故事例　運転席から見えていたにも関わらず、バケットが埋設管に接触

【事故概要】　道路改良工事での構造物撤去後の埋戻し作業中、バックホウで埋戻し土をすくい、土砂を投入しようと旋回したところ、旋回し過ぎてバケットが水道管に接触、破損させた。
　埋設管（水道管）があることはオペレーターにも事前に周知し、試掘して管を露出させ、位置を把握したうえで作業を実施していた。

【主な要因】①オペレーターは、水道管の存在を認識していたものの、もっと左側にあると誤認していた。
②オペレーターは、定時までに埋戻しを完了しようと焦っていた。

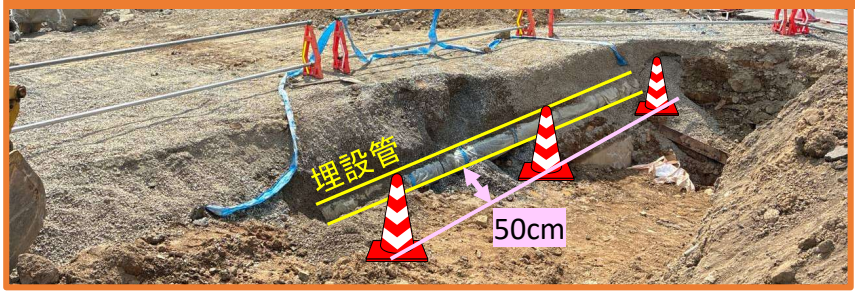




【再発防止策（受注者）】
①埋設管の端部から50cmまでの範囲を、**カラーコーン等で明示**する。

②昼の打合せ時と15時に、当日の作業の終了状況を、職長と元請職員とで相互確認することをルール化し、**焦らず安全に作業できる環境を整える**。

再発防止策　カラーコーン等で安全離隔（50cm）を明示



- 施設管理者への埋設物位置の事前確認を徹底しましょう。
- 職長・誘導員・オペレーター等、全作業員で危険箇所を共有しましょう。
- 「何mから手掘りに切り替える」等、作業手順は具体的に指示しましょう。
- 台帳と実際の位置のずれも想定し、慎重に施工しましょう。
- 作業中に「この辺りだろうか？」と不安や迷いを感じた場合には、作業を中断し、埋設物位置を再確認しましょう。
- 埋設物が露出し、位置が確認できていても油断せず、定められた離隔を確実に確保して作業しましょう。

